

常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月9日(金)号

◇ 校歴を紐解く③ 【校舎全景】

さわやかな風を感じつつ、黄色が混じり始めた山緑を目にし、五感で秋を感じる常磐東の10月。後半戦・後期の始まりである。後期のスタートは全校体育。子供たちが澁澀と輝いた詳細は、教頭が執筆する「学校だより」で紹介する。

さて、後半戦の「こうき」。「こうき」は「後期」であり、「好機」。全校体育で子供たちが大活躍したように、後期は「子供たちが我々の予想をはるかに超えて伸びる好機」なのである。子供たちの心身の健やかな成長を支えるべく、後期の始まりを節目として、我々も「求めて はげむ」所存である。

創立120年を節目としたシリーズ「校歴を紐解く その3」は、「写真で比較する校舎全景」とした。分かりやすくするために、用紙サイズをA3版とした。児童たちも、ぜひ見て楽しんでほしい。

◆まずは下の写真から。



- ・赤色の矢印➡で示す山が同じであることから察するに、常磐東小学校は平原ではなく、山を切り開いた地に建造されたことが分かる。
- ・建造時の青木川堤防法面のコンクリートは、建造直後で真っ白である。

○建造時の全景



○現在



◆次は視点を改めて、この写真。 青木川原の写真である。

- ・右の学校建設当時の
（昭和61年ごろ）
写真をよく見ると、
重機が確認できる。

青木川の川幅も狭い。

学校建設と並行して、
河川整備も行われて
いたことが分かる。



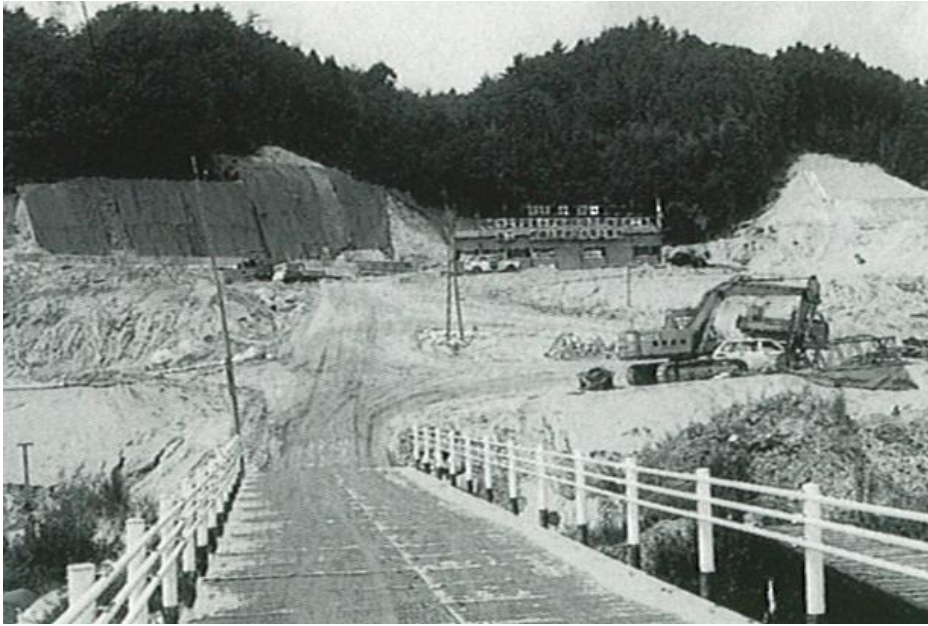
- ・右が現在の写真。

最も異なるのが、山
に架かる「第2東名
青木橋」の存在であ
る。

別資料によれば、橋
の開通式は平成21
年（西暦2009）に
行われており、現在
本校に在籍する子ど
もたちは、橋の工事
を知らない世代とな
る。



◆校舎建設時（整地工事）の写真。



- ・敷地内整地に加えて、裏山（常東ランド）の工事も行っていたことが分かる。

さらに、学校前の道路もないことから、並行して行われた。

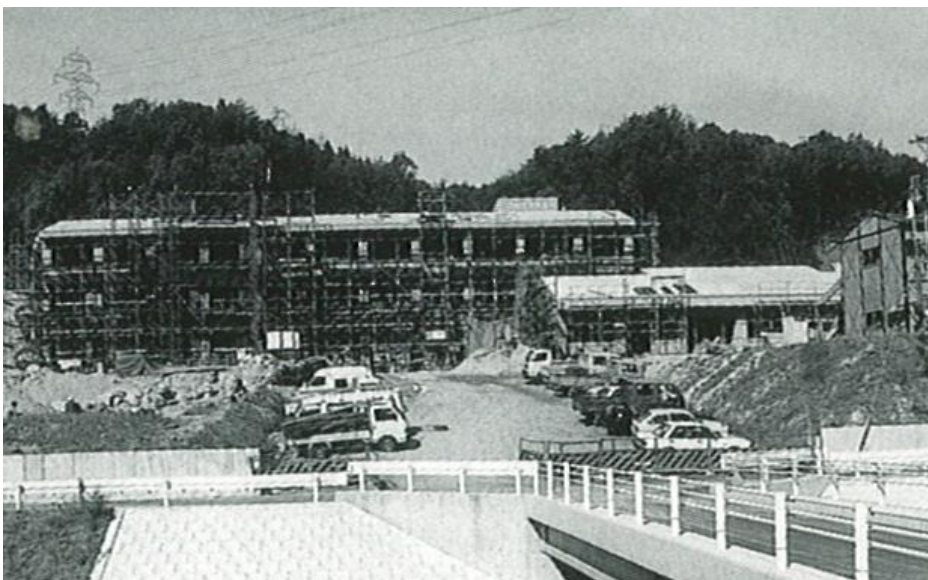
他校の学校建設と比較すると、かなり大がかりな工事である。



- ・左の写真が現在。

米山橋（よねやまはし・S61.3 竣工）の欄干の形状は工事時と同じであるが、下部の基礎の形状は異なる。同時期の並行工事であることが分かる。

◆整地工事から校舎建設工事へ



- ・山を切り拓いて整地しつつも、橋よりも高い位置に校舎を建設したのは、水災害予防対策であることが予想される。

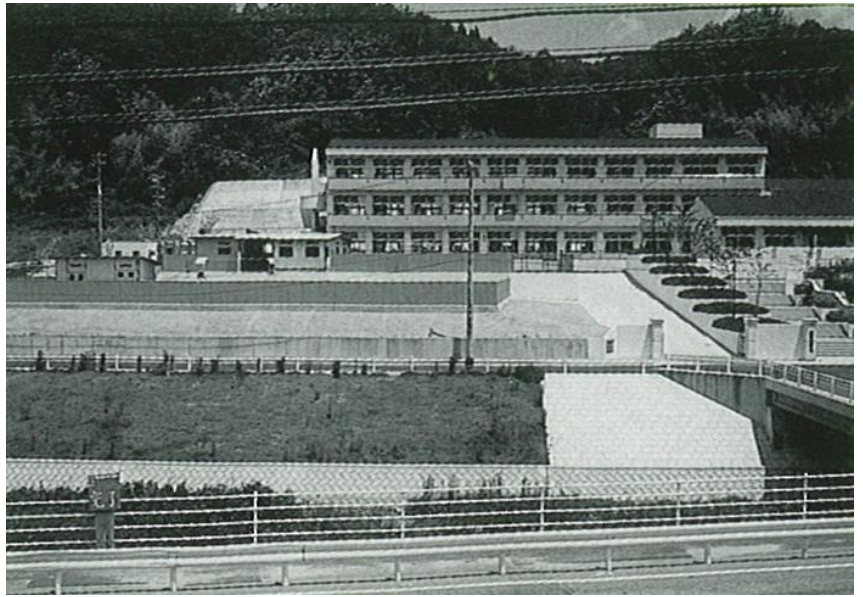
この時期になると米山橋の基礎の部分が現在と同じ形状である。

◆新校舎完成（昭和 62 年）

- ・校舎の完成は昭和 62 年。
まさに、
緑濃き山中に建つ
「白亜の校舎」
である。

無機質に見えるのは、校内
の緑がないためであろう。

ここから緑化活動が始まり、
「緑化日本一の学校」の
歴史が始まるのである。



- ・校門前から見ると、校内を
巡る【白壁】がまぶしい。

白壁と坂は、まるで
「ギリシャ」のようである。

桜階段の「ソメイヨシノ」
と対する「ハクモクレン」
の幹が、細々としている。

横断歩道の白線もくっきり。



◆現在の校門付近

- ・樹木の生長が、時を重ねた
ことをあらわしている。
- ・校門は、高圧洗浄機による
洗浄により、本年度スタート
時よりもきれいになった。
とはいっても、経年劣化
による傷みとコケの沈着に
より、白壁の黒ずみが残る。

後期 10 月、
さあ新生工事開始！

